

触媒懇談会ニュース

触媒学会シニア懇談会

老境三題 ー限りある挑戦ー

出口 隆

1. 万年初心者のゴルフ

今年でいよいよ後期高齢者の仲間入りをします。ゴルフを始めたのは45歳ころでしたから30年になりますが、「自分は初心者である」という意識が抜けたことがありません。初心者とは、ミスばかりしてスコアが悪く、どうすればよいか基本的なところで暗中模索・試行錯誤を繰り返している状態です。30年やっても基本ができないというのは本来絶望すべきことかもしれませんが、絶望しそうになってもまだ希望を捨てきれないのがゴルフの不思議なところです。ゴルフは止まっているボールを打つのですから上手く打てないのは100%自分に責任があるのですが、止まっているボールをうまく打てないのは悔しい。「こんなはずはない、コツさえつかめば上手く打てるはずだ」という意識が継続のドライビングフォースだと思っています。たまに目の覚めるような会心のショットが出るというのが諦めの先送りを支えます。

多くのゴルファーがスコアを記録していると思いますが、私も過去のスコアをExcelの表に記録してきました。これまでの220

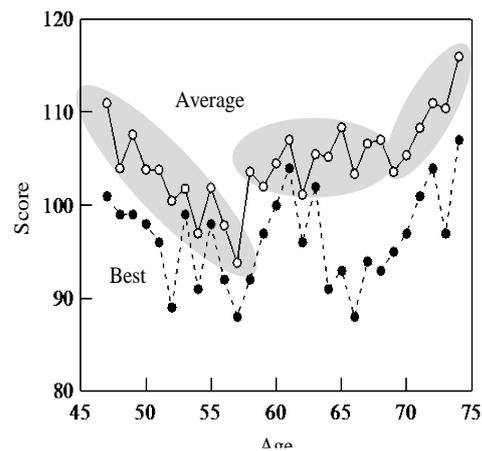


Fig. 1. ゴルフスコアの経年

ラウンドの成績を図にしてみると Fig. 1 のようになりました。

30年の統計には、日ごろの一喜一憂とは違って興味深い事実が示されました。年間の平均スコアを見ると、ゴルフを始めてから10年くらい、57歳くらいまでは多少の浮き沈みはあるものの年とともにスコアが改善されていました。それが突然大きくリバウンドします。進歩が止まったのなら理解できるのですが、まさに初心者に逆戻りしたのです。特にその頃健康を害したわけではなく、思い当たる節はないのですが何か歯車が狂ってしまい、そのまま10年、長期低迷が続きました。そして70歳手前から、

今度は明らかな悪化傾向が見られます。それが老化による体力の低下が原因であることは間違いありません。昔はドライバーで 220 ヤード位は飛んでいたけれども、今はせいぜい 180 ヤード程度です。このままではお先真っ暗ですが、本人はそれほど悲観的ではありません。

先行きに悲観的でないのは自分がまだ初心者と思っているからです。ここでいう初心者の定義は上に述べたとおりですが、これは大きな可能性がまだあることを意味しています。これまでと同じ練習やプレーのやり方では無理かもしれませんが、何か確実なものを掴んで積み上げることができればスコアは改善するはずとまだ希望を持っているのです。そして目標もあります。第一の目標はベストスコアを更新することです。ベストスコアは 57 歳の時に出したものですが、その後 66 歳の時に同スコアを記録しただけでこれまで更新できていません。これをもう一度更新したい。もう一つの目標は、年間平均スコアのベストを更新することです。これも 57 歳の時に記録したものです。年齢とともに体力も運動神経も精神力も確実に減退していきますから、これは大きなチャレンジであり、私にとっては興味のある人生の実験であると思っています。

2. 七十の手習い 三味線

暇が多くなる年齢になって新たにインドアの趣味を持つと思って 3 年前に三味線を習い始めました。その前に家内が琴を始

めていたのですが、その先生の教室に体験入門してそのまま月 3 回のレッスンを受けることにしたのです。七十の手習いでどこまで上達できるか、最初から実験と思っていましたが、これは予想以上に難しい道でした。「石の上にも三年」といわれるので、3 年すれば少しは恰好がつくと期待していたのですが、3 年経った今、上達の遅さに後悔にも似た落胆を感じています。持って生まれた音楽の才能の無さは認めるとしても、年齢の壁が立ちほだかっているように思えます。この諺の「三年」は、若い時の 3 年をいうのであって、私の年ならば 10 年以上に相当するに違いありません。実際に教室には小学生や中学生が入ってきますが、見る間に上達していきます。

三味線は 3 本の弦(低い方から 1 の糸、2 の糸、3 の糸)からできており、これを右手で持つ撥を当てたり、左手の指ではじいて音を出します。意外に撥が大きく重い(私の撥で 240g)ので、糸を見ずに狙いの糸に撥の先端を確実に当てるのは結構難しいものです。左手では指で弦を押さえて音の高さを調節しますが、ギターのように押さえるポジションにフレットがないので弦を見ずに正確な音を出すには熟練が要ります。次に楽譜です。楽譜は数字の組み合わせでできており、1 の糸は漢数字に人偏がついたもの、2 の糸は漢数字、3 の糸はアラビア数字で各ポジションが表現されます。縦書きで、小学校の国語のノートのような碁盤目の中にそれらの数字が書き込まれてリズムが決めら

○	ナ	4	テ	フ	○	イ
シ	ワ	ス	レ	メ	シ	イ
ナ	7	△	テ	ト	シ	イ
シ	ル	1	シ	イ	シ	イ
ナ	3	ナ	ト	フ	ナ	3
シ	ル	3	シ	フ	シ	イ
フ	ニ	フ	○	フ	○	フ
シ	イ	シ	シ	シ	シ	イ
○	と	ナ	ト	ト	ト	ト
シ	3	○	○	シ	シ	シ
フ	ニ	テ	ロ	ス	フ	ル
シ	は	シ	シ	シ	シ	シ
ト	ア	ト	○	○	○	○
シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
○	テ	フ	ナ	ロ	ナ	ナ
シ	3	シ	シ	シ	シ	シ
ト	テ	フ	フ	ト	ナ	ナ
シ	5	シ	シ	シ	シ	シ
ナ	7	フ	テ	○	シ	シ
シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
フ	△	○	フ	ナ	フ	フ
シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
フ	△	○	フ	ナ	フ	フ
シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
○	ナ	テ	○	ル	ナ	ナ
シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
ト	ナ	ナ	フ	○	フ	フ
シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ

Fig. 2. 三味線の楽譜

れます(Fig. 2)。

基本的にはこの楽譜だけを見て演奏するのですが、私などは正確なポジションを押さえられず、つい糸を見てしまいます。楽譜から目を離すと、今度はどの部分を演奏していたか分からなくなり立ち往生するのが常です。次に撥さばき。団扇であおぐように、撥の重みで弾く、手首から力を抜く、など何度も基本的なことを教えられますが、未だに実感で理解できていません。ゴルフのクラブも同じですが、「さばく」という感覚が得られたら新しい境地に入れるでしょう。もう一つ難しいのが唄です。地歌ということですが、唄は三味線と一体もので演奏しながら唄を歌うのが普通です。唄は楽

譜に並列して歌詞とメロディーが書き込んでありますが、唄と三味線では音程とタイミングが同じでないため、三味線を弾きながら歌うのは私にとって至難の業です。

以上、上達しない言い訳をいろいろ書きましたが、今やめてしまおうとは思っていません。もう少し実験を続けたい。ゴルフほどに楽観的にはなれませんが、実験期間が3年は短すぎると思うことにしました。もう一つ、これは老化対策に絶好と思われる。上記の通り、楽譜の読み取り、左手と右手のコントロール、それに唄。しっかりやれば脳はめまぐるしく働くはずですが(実際にはそのように働かないから狂うのでしょうか・・・トホホ)。その上、お師匠さんは私より若い女性、一対一でレッスンを受けるのはかなり緊張感があります。先生から見れば教え甲斐のない弟子ですが、福祉事業とでも考えて付き合っていたきたいと思います。

3. 書生談義

学生時代には、政治や経済、それに人生や宗教などについて友人とよく議論したものでした。いわゆる書生談義です。自分の人生観を形作る上で、このような議論は大きな役割を果たしたように思います。しかしながら会社生活の中では、それがほとんど姿を消しました。社員間での話題は差し障りのないものに限定されました。思想・信条にかかわる問題や政治の話題は突っ込んで議論することがありませんでした。それは会

社の外でも同じでした。社会人として現役同士の会話は、要らぬ誤解や摩擦を生まぬ配慮が先行しました。

リタイアして、書生談義が復活しました。たまたま高校時代に仲の良かった四人が東京住まいとなり、月1回の飲み会をすることにしたのです。丹波の片隅で一緒に受験勉強に励んだ仲間、気心が知れています。現役時代の社会的地位はそれぞれ違いましたが、リタイア後は関係ありません。法学部と経済学部各1人、工学部2人で、その後のキャリアが全く違うため、互いに先生でもあります。年齢のせいで病気の話が多くなりがちですが、家族のこと、政治、経済、歴史、国際情勢、自然科学・・・と話題は多岐にわたります。酒を飲みながらの議論はなかなか収斂せず、たまに激高することもあります。必ずしも一つの結論を得ることが目的ではありません。学生時代に下宿の部屋で議論した時と同じように、時間と空間と問題意識を共有していることが貴重なのです。

これは人生の終盤に向かう道中での、貴重な道場だと思っています。同じように議論していても、やはり若い時とは違う。この世を生きてきて、その多くの経験と知識の上に立っています。それは自分たちの集大成でもあります。去年は仲間の一人が世を去りました。大きな喪失感がありますが、最後の日々まで一緒に議論できたことが何よりの慰めです。